

第1回 先端医療技術教育研究開発センター 発足記念座談会 開催報告

北海道大学病院 先端医療技術教育研究開発センター（CERIA-MT）の発足を記念し、2024年3月18日（月）、北海道大学オープンイノベーションハブ「エンレイソウ メインラウンジ」にて、第1回座談会を開催いたしました。

■ 開催概要

- ・ 日時：2024年3月18日（月）17:00～18:30
- ・ 会場：北海道大学 オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」メインラウンジ
- ・ 主催：北海道大学病院 先端医療技術教育研究開発センター（CERIA-MT）
- ・ ファシリテーター：
近野 敦（北海道大学 情報科学研究院 副研究院長）
七戸 俊明（北海道大学病院 CERIA-MT センター長）

■ 話題提供

話題提供①：

「地震災害と医療」

北海道大学病院 先端医療技術教育研究開発センター/消化器外科Ⅱ 副センター長/助教
村上 壮一

東日本大震災、熊本地震、能登半島地震などでの災害医療経験をもとに、現場における外科的手技の重要性と、その教育の必要性について述べました。後半では、メタバース（MV）や拡張現実（XR）技術を活用し、仮想空間上での遠隔支援を可能にする「MV-XR 遠隔災害医療支援研究」*について紹介。現場の状況を再現し、遠隔地から適切な医療指示を可能とするシステムの構築に向けた展望を語りました。

*北海道大学情報科学研究科学院と共同で、MV-XR を用いて災害医療を支援するシステムを、防衛装備庁の委託事業として研究開発しております。本研究のコンセプトは、[こちらのビデオ](#)をご覧ください。

話題提供②

「災害時の遠隔医療活用に関する課題」

国立医薬品食品衛生研究所 医療機器部 性能評価室 室長
岡本 吉弘 先生

現在行える可能性のある災害時の遠隔医療、また「MV-XR 遠隔災害医療支援研究」で開発しているシステムにおける制度・機器・通信環境の課題について概観するご発表を頂きました。特に法制度と技術基盤のギャップ、評価の標準化の必要性を提起し、実運用に向けた現場との連携強化の重要性が強調されました。

■ ディスカッション：MV-XR 遠隔災害医療支援の展望と課題

講演後のディスカッションでは、「MV-XR 遠隔災害医療支援研究」の実用化を念頭に置

いた議論が展開されました。災害現場での通信インフラの課題と対応策についてはスターリンク衛星通信の活用が挙げられ、その実用性の高さはすでにロシアより侵攻を受けているウクライナにおいて実証されていることが紹介されました。スターリンクを「MV-XR 遠隔災害医療支援研究」で開発するシステムに採用することにより現場の状況を遠隔の医師が精緻に把握出来るようになった場合、遠隔地の医師は現場の支援をどのようにどこまで行えるのか、例えば現場に看護師や救命士のみがいる場合にどこまでの医療行為が認められる可能性があるのかについて、岡本先生より現行法と今後の可能性についての見解が述べられました。活発な意見交換は、予定していた時間を大幅に延長して行われました。

■ おわりに

発足記念として実施された今回の座談会は、災害×医療×技術×教育という観点から多くの示唆を得る機会となりました。今後も先端医療技術教育研究開発センターでは、多分野との連携による社会課題の解決に向けた取組を進めてまいります。

国立医薬品食品衛生研究所 医療機器部 性能評価室 室長 岡本 吉弘 先生のご講演。演者は聴衆の近くで語る「座談会」形式で、ご講演を頂きました。



ディスカッションの様子。近野情報科学研究院長、七戸先端医療技術教育研究開発センター長によるファシリテーションで、活発な議論が交わされました。

